

## 5 特別活動の指導

### (1) 特別活動とは

(小学校学習指導要領第6章 第1「目標」) 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 「知識及び技能」
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方(中学校:人間としての生き方)についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

※高等学校は、文部科学省(平成30年)『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』参照

特別活動は、「なすことによって学ぶ」を方法原理としており、集団活動であるとともに、自主的・実践的な活動である。

- 集団活動とは、よりよい生活や人間関係を築くために、目標やその達成の方法や手段などを決め、みんなで役割を分担してその実現を目指す協働的な活動である。
- 自主的な活動とは、自ら楽しく豊かな学級や学校の生活をつくりたいという課題意識をもって、指示待ちではなく、自分たちで問題を見付けたり話し合ったりして解決するなど、「児童生徒による、児童生徒のための活動」である。
- 実践的な活動とは、楽しく豊かな学級や学校の生活づくりのための諸問題を話し合ったり、話し合いで決めたことに友達と協力して取り組み、反省を次に生かしたりするなど具体的に実践する活動である。

特別活動が充実すると・・・

- ・自分たちで生活の諸問題を解決しようとするたくましい児童生徒が育つ
- ・児童生徒相互、児童生徒と教師との人間的な触れ合いが深まる
- ・友達と協力して、チームで活動しようとする児童生徒が育ち、いじめ問題等の未然防止に役立つ
- ・切磋琢磨できるよりよい人間関係が育ち、効果的に学力を向上するための土壌づくりになる
- ・共生社会の担い手としての豊かな人間性や社会性を身に付けることができる

### (2) 特別活動の内容

各校種の特別活動の内容は、以下のとおりである。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
A 学級活動	A 学級活動	A ホームルーム活動	○ 小・中・高等部では、各校種の特別活動の内容を参考に、最も適した内容を選択することが望ましい。
B 児童会活動	B 生徒会活動	B 生徒会活動	
C クラブ活動		C 学校行事	
D 学校行事	C 学校行事		

### (3) 学級活動の指導

#### ア 学級活動に充てる時間

特別活動の基盤となる学級活動の授業時数は、小学校の第1学年で34単位時間、第2～6学年ではそれぞれ35単位時間、また中学校・高等学校では、原則として、年間35単位時間以上を充てるものと示されている。したがって、児童生徒の継続的な活動を促進するため、学級活動は、毎週計画的に実施することを基本としている。

## イ 学級活動の内容

学級活動の目標は、「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。」と示されており、その内容には、「全ての学年で取り扱うもの」として複数の項目が示されている。小学校の項目〔共通事項〕は次のとおりである。

### 〔共通事項〕

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
  - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
  - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
  
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
  - ア 基本的な生活習慣の形成
  - イ よりよい人間関係の形成
  - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
  - エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
  
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
  - ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
  - イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
  - ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」は、主として児童生徒が自分たちの学級や学校の生活をよりよくするために、議題を見付け、話し合い、協力して実践する自発的、自治的な活動である。このことから年間指導計画には、児童生徒の活動として望ましい内容（予想される議題例）や時期、時間配当などについて示すことが考えられる。

一方、「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」に関する内容は、学級担任が意図的、計画的に指導する内容であるから、各学年、学級ごとに、指導する内容（題材名）や時期、時間配当などを明確にして指導計画を作成する必要がある。

## ウ 学級活動の指導

「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」は、集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動を特質としている。また、「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」は、集団での話し合いを通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践する児童生徒の自主的、実践的な活動を特質としている。したがって、これらの特質を踏まえた話し合い等の活動過程にすることが大切である。一般的には、例えば小学校の場合では、次の表のような事前から事後に至る一連の活動過程が考えられる。

	(1)学級や学校における生活づくりへの参画	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現
事前の活動	<b>問題の発見</b> 教師の適切な指導の下に、児童が諸問題を発見し、提案をする	<b>題材の確認</b> 年間指導計画により、個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材」を決める
	<b>学級としての課題の選定</b> 協力して達成したり、解決したりする学級として取り組むべき共同の問題を決めて、問題意識を共有する	<b>課題の設定</b> 取り上げる題材について学級の問題等を確認し、課題を設定する
本時の活動	<b>議題の決定</b> 目標を達成したり、問題を解決したりするために、全員で話し合うべき「議題」を決める	<b>共通の課題の設定</b> 個々の児童が解決すべき共通の問題として授業で取り上げる内容を決めて児童に伝え、問題意識の共有化を図る
	<b>活動計画の作成</b> 話し合うこと、決まっていることなど、話し合い活動（学級会）の活動計画を作成する（教師は指導計画）	<b>指導計画の作成</b> 本時の指導計画や資料を作成する
事後の活動	<b>問題意識を高める</b> 話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識を高める	<b>問題意識を高める</b> 授業において取り上げる問題について自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識を高める
	<b>集団討議による合意形成</b> <b>提案理由の理解</b> 提案理由に書かれた課題の解決に向けて話し合うため、内容を理解しておく	<b>集団思考を生かした個々の意思決定</b> <b>課題の把握</b> アンケートや調査結果を活用し、自分自身の課題としてとらえられるようにする
事後の活動	<b>解決方法等の話し合い</b> 一人一人が多様な考えを発表し、意見の違いや共通点をはっきりさせながら話し合う	<b>原因の追求</b> 原因を整理して、解決に向けての方向性をはっきりとさせ、改善の必要性を感じる
	<b>合意形成</b> 少数の意見も大切にしながら、学級全体の合意形成を図る	<b>解決方法等の話し合い</b> みんなで話し合い、協力して個々の意思決定へと向かっていけるようにする
事後の活動	<b>決めたことの実践</b> 合意形成したことをもとに、役割を分担し、全員で協力して、目標の実現を目指す	<b>決めたことの実践</b> 意思決定したことをもとに、個人として努力し、目標の実現を目指す
	<b>振り返り</b> 活動の成果や過程などについて振り返り、評価をする	<b>振り返り</b> 努力の成果や過程について振り返り、評価をする
	<b>次の課題解決へ</b>	<b>次の課題解決へ</b>

エ 学級活動の「話し合い活動」の指導におけるポイント

(ア) 事前の活動においては・・・

<p>【議題の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 議題ポストへの提案</li> <li>● 朝の会や終わりの会での話題</li> <li>● 学級日誌等への書き込み</li> <li>● 係活動や当番活動の感想</li> <li>● 児童（生徒）会等から依頼されたこと</li> </ul>	<p>【話し合おうとする意欲の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前にノートなどに各自の考えを記入させ、助言や励ましの言葉を書いて返却し、自信をもって発言できるようにする。</li> <li>● 議題や提案理由、話し合うことなどについて、コーナーを設けて掲示し、事前の共通理解を図る。</li> <li>● 必要に応じて、アンケートなどを実施し、結果をまとめた資料などを作成して議題への切実感を高める。</li> </ul>
<p>【議題として児童生徒に任せることができない内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人情報やプライバシーに関わること</li> <li>● 相手を傷つけるような結果が予想されること</li> <li>● 教育課程に関わること</li> <li>● 校内のきまりや施設・設備の利用に関わること</li> <li>● 金銭徴収に関わること</li> <li>● 健康・安全に関わること</li> </ul>	<p>【話し合い活動のシミュレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 提案者の思いを生かして提案理由を明確化する。</li> <li>● 話し合うこと（話し合いの柱）を決定しておく。</li> <li>● 司会や書記などの役割分担をし、司会や記録の仕方を確認しておく。</li> <li>● 進行台本などを作成し、進め方のシミュレーションをして話し合いの流れや時間を確認する。</li> </ul>

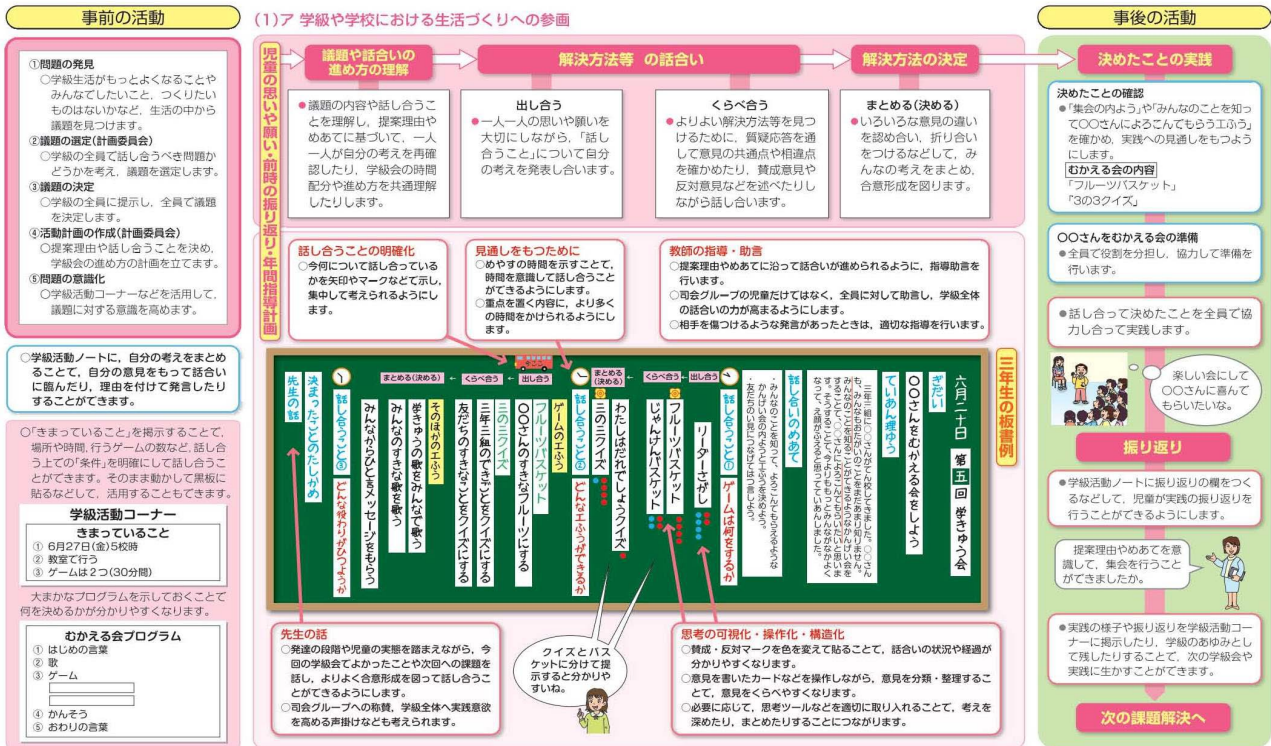
(イ) 本時の活動においては・・・

【指導・助言のタイミング】

- 人権を侵害するような発言があったとき
- 提案理由や話し合いのめあてからそれたとき
- 話し合いが混乱したとき  
司会だけではなく、全員に対して助言し、学級全体の話し合いの力が高まるようにする。
- 終末には、司会へのねぎらいや前回の話し合いと比べてよかったことや次回に向けての課題、さらには「みんなで話し合って 決めたことは、必ず協力して実践する」ことを押さえる。

【思考の可視化・操作化・構造化】※

- 「出し合う→比べ合う→まとめる(決める)」という話し合いの流れが分かるような工夫をする。
- 短冊などを利用して、意見を比較・分類しやすくする。
  - 現在、何が行われているかが分かるような「今、ここ」マークや時間を意識した話し合いが行われるように目安の時間を示す。
  - すでに決まっている条件を明確に示しておく。



※思考の可視化・操作化・構造化の例

(「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」)

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu\\_h300704-01.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h300704-01.pdf)



(ウ) 事後の活動においては・・・

【実践の進捗度の確認】

- 互いの活動の進み具合などを報告させ、実践の達成具合を確認する。
- 実践を進める中で、常に、話し合いの提案理由に立ち返らせ、めあてをもって活動できるようにする。

【実践の振り返り】

- 自分の活動を振り返る自己評価や互いのよさを認め合う相互評価を取り入れ、成果と課題を整理する。
- 学級全体についての成果と課題は、学級活動コーナー※などに掲示することで学級全員で共有し、次の活動に生かす。
- 個人の評価は学活ノートなどに積み重ねて、自己の変容を振り返る資料とさせる。

学級会までの流れや話し合いで決まったこと、各役割の進み具合などの実践の進捗度が常に確認できるような資料を掲示することで、実践に対する学級全体での共通理解が進み、協力して取り組んでいこうとする意欲の高まりが期待できる。

また、ラミネート加工した短冊や話し合いの可視化・構造化に役立つ表示物、学活ノートなどの話し合い活動を円滑に進めるためのグッズをまとめて自由に使えるようにしておくことで、日常的にこれらのグッズを活用しようとする雰囲気醸成され、自発的、自治的な活動がより活発化することも期待できる。

**「学級のおゆみ」の視覚化**

学級会で話し合って実践した活動や学校行事などの体験活動を「学級のおゆみ」として掲示することで、学級としての歴史を視覚化でき、自分たちの成長を振り返ることにつながるのと同時に、学級への愛着や誇りが芽生えます。

**組学級のおゆみ**

**4月**

○年○組が36人でスタート!  
「どうぞよろしくの会」をやって仲よくなったよ。



**5月**

○○公園への遠足  
バスレクでやった○○ゲームが楽しかったね。  
バスレク係さんありがとう!


感動したことや学んだことを学級全体で共有化すること、それぞれの活動をより豊かに残すことができます。真を貼って振り返りや学校行事や1年間の活示したりすることも考えられます。

**学級活動コーナー**

**学級活動コーナーの設置**

学級活動コーナーに、事前に議題等を厚紙等を活用して掲示しておきます。学級会の計画委員会を使う道具を設置しておくことで、児童が自由に活用できます。

また、学級会に向けた活動の流れを掲示しておくことで、児童が活動の見通しをもって計画、運営ができるようになります。さらに、議題を短冊にしておくと、学級会の板書の掲示にそのまま使ったり、お知らせや記録に使ったりすることができます。



**係活動コーナー**

係活動のコーナーを作って係のメンバーや活動の目標を掲示し、振り返りができるようにします。活動のアイデアを募集する係ポストや係活動ノート(係で話し合ったことなどを記録する)などを児童がすぐに手にとれるようにしておくことは、活動の充実につながります。

**児童会活動・クラブ活動のお知らせ**

委員会活動や代表委員会、クラブ活動に関わるお知らせコーナーをつくり、児童の意欲を高めます。

**議題ポスト(提案用紙)**

議題ポストを設置することで問題意識を高め、指導したいときにすぐ議題を提案することができます。取り上げられなかった議題も大切に、どのように扱うか返事をするなど、提案者の思いを大切にします。

**学級会グッズのあれこれ**

学級会の板書に使うカード(議題、決まっていること、時計カード、決定マーク、短冊、ネームカード等)

※学級活動コーナーの設置例(「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」)

#### (4) 特別活動の指導におけるICTの活用について

特別活動の指導に当たっては、指導内容に応じて、適宜コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用することによって、児童・生徒の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることが考えられる。ICTの活用については、特別活動の特質「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。

#### 参考資料・文献

- (1) 文部科学省(平成29年)『小学校学習指導要領解説 特別活動編』
- (2) 文部科学省(平成29年)『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
- (3) 文部科学省(平成30年)『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』
- (4) 国立教育政策研究所(平成30年)「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編」[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu\\_h300704-01.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h300704-01.pdf)

